

2013年6月8日

竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会  
関係者各位

半沢一宣

**【緊急】東京メトロ竹ノ塚検車区構内の伐採予定の桜を救えませんか？**

いつもお世話になっております。

一昨日（6月6日、木曜日）東京メトロ竹ノ塚検車区の前を通ったとき、高架化工事の施工業者名で、着発線（東武鉄道の運転士と東京メトロの職員が交代するために停車する場所）沿いの桜を5月以降順次撤去（伐採）する旨の掲示が出ているのに気づきました。

下り急行線の高架化に伴い現行の着発線が支障し、その着発線を移設する（西側へずらす）のにこの桜が支障することには以前から気づいていましたが、これほど早く伐採に着手されることまでは頭が回りませんでした。

我ながら迂闊なことでした。

高架化のためとはいえ、命がある桜を安易に撤去・伐採＝殺してしまうことには、忍びないものを感じます。

それは足立区が推進する「みどりのまちづくり」の理念にも逆行することになるのではないのでしょうか。

掲示物にも記されているとおり、長年にわたり地元民から親しまれてきた桜です。

この桜たちを、何らかの形で救うことはできないのでしょうか。

最も簡単で最善と思われるのは、東京都住宅局に掛け合って、隣接する都営住宅の敷地内に移植させてもらうことです。

都としても反対する理由があるとは思われませんから、問題は工期と費用だけでしょう。

次善の策は、高架化工事期間中だけ一時的に他の場所へ植え替え、工事が終わったら高架線沿いに植え戻すことです。

私が自転車ですぐ通る荒川区の宮地（みやち）交差点には、下水道工事に支障する交差点内の桜を一時的に川口市のどこかへ移植し（いずれ元の場所に戻す予定）、その桜の仮植え先での様子を知らせる写真を随時更新・掲示しています。

これと同じ手法を、メトロの検車区の桜にも応用できないのでしょうか。

上記のどちらも困難なのであれば、現在の桜の枝から接ぎ木を取って育てた苗、または2代目となる新しい桜を、高架化完成後の下り急行線沿いに植樹できないのでしょうか。

この方法を採用した実例としては、近鉄名古屋線の烏森（かすみり）駅前のクロマツがあります。

同駅の南側では近鉄名古屋線・JR関西本線と佐屋街道（旧東海道で熱田～桑名間の「七里の渡し」を迂回する脇往還）とが交差しており、1990年代までは同駅前の開かずの踏切の横に、江戸時代の松並木の生き残りである立派なクロマツが何本か残っていました。

ところが鉄道高架化に支障するため、大きすぎて移植も困難であることから伐採されて

2013年6月8日：東京メトロ竹ノ塚検車区構内の伐採予定の桜を救えませんか？

しまったのですが、その代わりとして、やや西の公開空き地に、2代目のクロマツが植えられています。

メトロの検車区の桜でも、最低でもこの程度のことはできないものでしょうか。

本件については、既に今月7日付で「区長へのメール」と区役所の鉄道立体化担当課に問題提起済みです。

本日現在、桜の伐採はまだ始まっていませんが、いつ伐採工事が始まってもおかしくない段階のようです。

よろしくご配慮の程お願い申し上げます。

敬具

#### 参考文献

中村儀朋・編著『さくら道』風媒社・刊

昭和30年代に岐阜県で御母衣（みぼろ）ダムが建設された際、水没地区の住民の心の

拠り所だった2本の老桜を救うため、高台へ移植した工事の詳細が記されています。

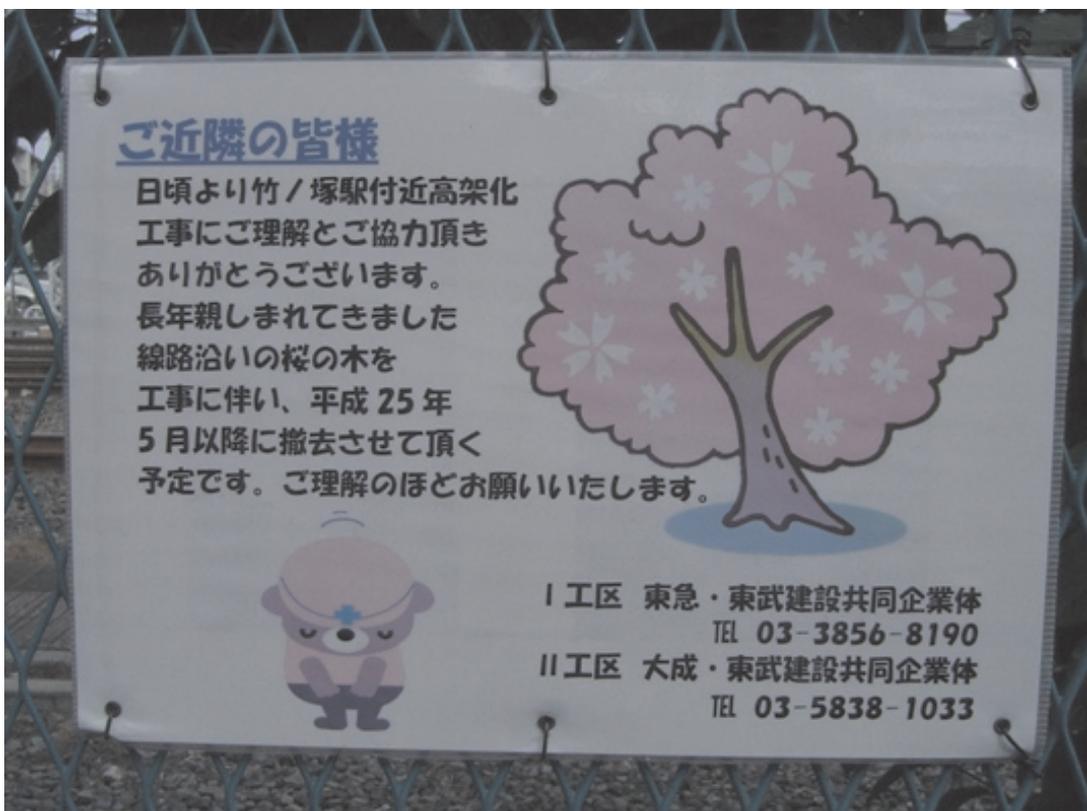
映画「さくら」（神山征二郎・監督）の原作。

足立区立図書館には、1987年初版と1993年改訂新版の両方の所蔵があります。

2013年6月8日：東京メトロ竹ノ塚検車区構内の伐採予定の桜を救えませんか？



【写真1】東京メトロ竹ノ塚検車区の着発線付近の桜。  
(道路の左側。画面の右端が都営住宅。2013年6月8日撮影)



【写真2】着発線付近の桜の撤去工事を告知した看板。(2013年6月8日撮影)

2013年6月8日：東京メトロ竹ノ塚検車区構内の伐採予定の桜を救えませんか？



【写真3・4】宮地交差点（荒川区）の南西の角にある、桜の一時移植について周知する看板。（2013年6月8日撮影）

2013年6月8日：東京メトロ竹ノ塚検車区構内の伐採予定の桜を救えませんか？



【写真5・6】近鉄名古屋線烏森（かすみり）駅の西方に植樹されたクロマツ。上の写真で前方に延びているのが旧・佐屋街道。かつて同駅前の踏切の横には江戸時代の松並木の面影を残す巨松が数本残っていたが、同駅付近の鉄道連続立体交差化に支障するため伐採されてしまった。その代替として植樹されたもの。（2008年3月29日撮影）